

第3・4学年 算数科学習指導案（複式学級）

日 時 平成26年6月19日（木）2校時
 児 童 第3学年 男子1名 女子1名 計 2名
 第4学年 男子0名 女子4名 計 4名
 指導者 佐々木 尚

《第3学年》

1 単元名 「あまりのあるわり算」

2 単元について

(1) 単元の目標

わり切れない場合の除法について理解し、除法の意味について理解を深めるとともに、それをを用いることができるようにする。

【関心・意欲・態度】

・わり切れない場合の除法の意味や計算の仕方について、わり切れる場合の除法を基に、乗法との関連や具体物の操作などからとらえようとする。

【数学的な考え方】

・わり切れる場合とわり切れない場合の除法を統合してとらえ、除法の意味や計算の仕方を具体物や図、式を用いて表現することができる。

【技 能】

・わり切れない場合の除法の計算ができ、商や余りを求めることができる。

【知識・理解】

・余りの意味や余りと除数の大小関係を知り、除法について理解する。

(2) 児童について

3年生は2人だけであるが、自分の考えをきちんと話し、自分たちで学習を進めることができる。また、理解力もあり、意欲的な2人なので、習熟も速い。前単元では、わり算の式の意味理解が出来ており、計算も確実に行うことが出来ている。反面、間違ってしまったたり友達の考えに納得がいかなかったりすると、学習を前に進めることが出来ず、立ち止まってしまうこともある。操作活動による除法の意味、乗法との関連を引き続き丁寧に指導し、2人で協力し合いながら計算の習熟と定着に努めてきた。本単元に関するレディネステストの結果は以下の通りである。

習得・未習内容		人数	正答率%
①	かけ算九九を1回適用する除法で、あまりのない場合の計算ができるか。	2/2	100%
②		2/2	100%
③		2/2	100%
④		2/2	100%
⑤		2/2	100%
⑥		2/2	100%
⑦	a ÷ a、a ÷ 1、0 ÷ a の計算ができるか。	1/2	50%
⑧		2/2	100%
⑨		2/2	100%
⑩	九九を1回適用する除法の問題（あまりのない場合）の立式や計算求答ができるか。	2/2	100%
⑪		2/2	100%
⑫	（未習内容）九九を1回適用する除法で、あまりのある場合の計算ができるか。	0/2	0%
⑬	（未習内容）九九を1回適用する除法問題（あまりのある場合）の立式や計算、求答ができるか。	0/2	0%
⑭		2/2	100%

6月2日現在

(3) 教材について

本単元は、学習指導要領の第3学年の内容「A数と計算」領域における「(4) 除法の意味について理解し、それをを用いることができるようにする。」をうけて設定されている。

本単元では、乗法九九を1回適用してできる除法で、余りのある場合の計算の意味と計算方法について学習する。そして、余りのある除法計算を用いる場合でも、余りのない除法計算同様に進んで問題解決に活用できるようにする。

第3学年第3単元「わり算」において、除法という新たな計算について学習してきている。そこでは、除法には2つの意味があることや、除法は乗法の逆算であり、答えを求める際には除数の段の九九を使うことなどを学習した。しかし、中には、除法ができるのは、被除数が乗法九九の答えと一致する場合だけと思っている児童や、逆に全体の数が常にわり切れてしまうことの不自然さに気づいている児童もいる。そこで、指導にあたっては、余りのある場合とない場合について、おはじきの操作や図、九九表等を活用して、丁寧に指導する必要がある。

余りのある除法の計算では、除法の計算途中で余りを求める際に、減法の暗算を行うことになり、計算過程における負担から、余りの計算間違いを起しやすくなる。計算間違いを起しやすくなる児童に対しては、余りをもとめる計算を筆算でさせることが有効である。

本単元で学習する、乗法九九を1回適用して除法の商と余りを求めることは、第4学年第3単元「わり算の筆算(1)」や第8単元「わり算の筆算(2)」の学習の際の基礎となるので、確実に習得させたい。

(4) 指導について

第2学年から第3学年にかけての乗法九九の学習では、九九表を作成したりその見方を学習したりしてきている。第3単元で学習した乗法九九を1回適用して商を求める除法は、被除数が九九表の積と一致する場合であったため、除数の段の九九表を順に探していけば、被除数が見つかり商を求めることができた。余りのある除法については、被除数と九九表の積は一致しないが、同様に調べていき、被除数を超えない一番近い積を見つけることで商と余りを求めることができる。

指導に当たっては、実際に場面を想定させ、半具体物（おはじき、数図ブロック）の操作活動や図を使うことで、余りがでない場合と出る場合があることをとらえさせたい。その中で、余りの意味や、除数・被除数・余りの関係をとらえさせ、式や言葉でも表せるようにしたい。

《第4学年》

1 単元名 「わり算の筆算(1) ーわる数が1けた」

2 単元について

(1) 単元の目標

2～3位数を1位数でわる除法計算について理解し、その計算が確実にできるようにするとともに、それを適切に用いる能力を伸ばす。

【関心・意欲・態度】

・2～3位数÷1位数の計算について、九九1回適用の除法など基本的な計算を基にできることのよさに気づき、学習に生かそうとする。

【数学的な考え方】

・2～3位数÷1位数の筆算の仕方について、数の構成や既習の除法計算を基に考え、表現したりまとめたりすることができる。

【技 能】

・2～3位数÷1位数の除法の筆算の手順を基にして、確実に計算することができる。

・簡単な除法計算を暗算ですることができる。

【知識・理解】

・2～3位数÷1位数の除法の筆算の仕方や倍について理解する。

(2) 児童について

4年生は4人である。日常の学習において、それぞれ意欲的に学習に取り組む児童が多い。また、自分の考えや気づきを積極的に述べようとする姿勢が見られ、自分たちで学習を進めることができる。式や答えを求めたりすることはできるが、考えを書いたり、その根拠を説明したりすることになると苦手意識が見られる。

筆算は計算の過程で乗法と減法の筆算が含まれ、商を立てることや位の大きい方から計算を行うなど、児童にとっては抵抗も大きいと思われるが、友達と教え合い協力し合いながら学習を進めてきた。

本単元に関するレディネステストの結果は以下の通りである。

習得・未習内容		人数	正答率%
①	九九1回適用の除法	4/4	100%
②	(あまりなし) ができるか。	4/4	100%
③		4/4	100%
④		4/4	100%
⑤		3/4	75%
⑥		3/4	75%
⑦	九九1回適用の除法	4/4	100%
⑧	(あまりあり) ができるか。	3/4	75%
⑨		4/4	100%
⑩	あまりは除数より小さいことが分かっているか。	3/4	75%
⑪	あまりのある除法の検算の式が分かっているか。	4/4	100%
⑫	(未習内容) 十、百を単位として考える除法計算ができるか	3/4	75%
⑬		1/4	25%

6月2日現在

(3) 教材について

本単元は、学習指導要領の第4学年の内容「A数と計算」領域における「(3) 整数の除法についての理解を深め、その計算が確実にできるようにし、それを適切に用いる能力を伸ばす。」をうけて設定されている。

本単元では、被除数を2～3位数に拡張し、筆算形式を学習する。筆算形式の理解だけでなく、わり算の意味についても取り上げるようにする。第3学年ではわり算の意味と、九九を1回適用してできるわり算、簡単な場合の2位数÷1位数の計算まで学習してきている。

本単元では、わり算の意味についてもおさえ、正しく理解させていきたい。わり算の意味として等分除と包含除がある。かけ算の意味が(1つ分の大きさ) × (いくつ分) = (全体の大きさ) であるとき、(1つ分の大きさ) を求めるのが等分除であり、(いくつ分) を求めるのが包含除である。(いくつ分) を(倍) に置き換えると、「何倍」を求めるときにもわり算を用いることが分かる。

筆算形式の導入では、日常でもよく用いられるように、はじめに大きい10の束を分け、次に残った枚数を分ける。この分け方が上位から計算していくわり算の筆算形式に結びついていく。わり算の筆算を形式的に指導するのではなく、教科書で示した児童の考えと筆算の手順を関連させて示していくことが大切である。

本単元では除数は1位数であるが、第8単元「わり算の筆算(2)」では除数が2位数となる。そのため、本単元で学習する1位数でわる筆算を十分に習熟させることが大切である。また、1位数でわって、商が2位数になるわり算は暗算でもできるように十分に習熟させたい。

(4) 指導について

第3学年では、除法の意味理解と除数と商が1位数の場合の除法、そして簡単な場合についての除数が1位数で商が2位数の除法について学習している。この単元では被除数の数を2桁や3桁にして、筆算形式や簡単な暗算への理解が求められる。特に筆算の指導においては、単に形式的に処理するのではなく、筆算形式のよさに触れながら、筆算の仕方が考える過程を大事に扱っていきたい。筆算は計算の過程で乗法と減法の筆算が含まれている。また、商を立てることや位の大きい方から計算を行うなど、児童にとっては抵抗も大きい。既習との関連から、これまでの学習が確実に身につけていなければならない。(乗法九九の理解：2年、減法の筆算の理解：2年、除法の意味の理解：3年、乗法の筆算の理解：3年)

日常生活の中には、余りを適切に処理しなければならない場面もある。実生活で見られる問題を取り上げ、問題場面に応じて余りを適切に処理（余りを切り上げ、切り捨て）して解決することができるようにしたい。余りを切り上げるか、切り下げるかは、それぞれの問題に即して考えなければならない。実際の場面をイメージさせ、その事柄に応じて考えることができれば、除数・被除数・余りの関係に理解が深まってくると考える。図や半具体物を使ってノートにまとめたり、自分の意見を友達に説明する活動を通して、自分に考えを深めたり確かなものにしたりするようにしたい。

また、数の表し方や位取りの原理、相対的な数の大きさの理解など、どれをとっても重要な内容である。児童のつまづきを観察する際には、どの理解が不十分かをとらえ、個に応じた指導を心がけるなどし、除数が2桁になるまでに、しっかりと定着を図っておきたい。

3 学習指導計画

《第3学年》 (全10時間)

時	目 標	学 習 活 動	おもな評価規準	算数用語
(1) あまりのあるわり算 上p. 64~70 6時間				
1	【プロローグ】 ・ p. 64のイラストを見て、既習の余りのないわり算の復習と、わり算について知っていることについての話し合いを通して、わり切れない場合があることに気づかせ、わり算への興味・関心を高める。			わられる数 わる数
2	○除数と商が1位数の除法で、わり切れない場合の計算の仕方を理解する。	・ 14÷3の答えの見つけ方を考える ・ それぞれの考えを発表し、答えを確認する。 ・ 上記の計算結果を式に表すと14÷3=4余り2となることを知る。 ・ 余りの意味を知る。	○わり切れない場合の除法の計算の仕方を、既習の除法を基に考えようとしている。 ○わり切れない場合の除法の計算の仕方について、既習のわり切れる場合を基に考え、具体物や図、式などを用いて説明している。	あまり わりきれない わりきれ
3	○余りと除数の関係を理解する。	・ 13÷4の計算について余りと除数の関係を調べる。	○余りは除数より小さくすることを理解している。	
4	○等分除についてもわり切れない場合の除法が適用できることを理解する。	・ 題意をとらえ、16÷3と立式し、答えの見つけ方を考える。 ・ それぞれの考えを発表し、答えを確認する。 ・ 文章題に取り組む。	○わり切れない場合の等分除の計算の仕方を、わり切れる場合の等分除を基に考え、具体物や図、式などを用いて説明している。	
5	○わり切れない場合の除法計算について、答えの確かめ方を理解する。	・ わり切れない場合を含む除法の答えの確かめ方を考える。	○わり切れない場合の除法の答えの確かめ方を理解している。	
6	○わり切れない場合を含む、除法の計算練習をする。	・ 計算練習と答えの確かめをする。	○わり切れない場合の除法の計算ができ、商や余りを求めることができる。	
(2) あまりのある問題 上p. 71~72 2時間				
1	○余りのとらえ方について理解を深める。	・ 題意をとらえ、23÷4と立式し、計算して答えを求める。	○問題場面に応じた、商や余りの処理の仕方を理解している。	
まとめ 上p. 73~74 2時間				
1	○学習内容を適用して問題を解決する。	・ 「力をつけるもんだい」に取り組む。	○学習内容を適用して、問題を解決することができる。	
2	○学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。	・ 「しあげのもんだい」に取り組む。	○基本的な学習内容を身につけている。	

《第4学年》 (全16時間)

時	目 標	学 習 活 動	おもな評価規準	算数用語
(1) 何十、何百のわり算 上p. 30~32 2時間				
1	【プロローグ】 ・ p. 30の絵を提示し、被除数、除数がある数の場合の除法計算について話し合い、既習の除法計算を振り返りながら、新たな課題となる2~3位数÷1位数の除法計算への意欲や関心を高めるようにする。 ・ 所要時間は10分程度			
2	○九九1回適用で商が何十や何百になるわり算（余りなし）の計算の仕方を理解し、その計算ができる。	・ 立式し、その式になる理由を考える。 ・ 80÷4 の計算の仕方を考える。 ・ 計算練習をする。 ・ 600÷3 の計算の仕方を考える。 ・ 計算練習をする。	○80÷4 や600÷3 のような計算は、10や100を単位にすれば、九九を1回適用して計算できることのよさに気づいている。 ○80÷4 や600÷3 のような計算ができる。	
(2) わり算の筆算(1) 上p. 33~40 6時間				
1	○2位数÷1位数（余りなし）の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。	・ 問題場面から数量の関係をとらえ、立式する。 ・ 72÷3 の計算の仕方を考える。	○2位数÷1位数の計算の仕方を、既習の除法計算を基に、具体物や式を用いて考え、説明している。 ○2位数÷1位数（余りなし）の筆算ができる。	たてる かける ひく おろす
2		・ 72÷3 の筆算の仕方をまとめる。 ・ 72÷3 の答えの確かめをする。 ・ 計算練習をする。		
3	○2位数÷1位数（余りありで、各位ともわり切れない）の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。	・ 問題場面から数量の関係をとらえ、立式する。 ・ 76÷3 の筆算の仕方を考える。 ・ 76÷3 の答えの確かめをする。 ・ 計算練習をする。	○2位数÷1位数（余りありで、各位ともわり切れない）の筆算ができる。	
4	○2位数÷1位数（余りありで、十の位でわり切れる、及び九九1回適用）の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。	・ 86÷4, 62÷3 の筆算の仕方を考える。 ・ 計算練習をする。 ・ 3年で既習の34÷7 を筆算で計算する。 ・ 計算練習をする。	○2位数÷1位数（余りありで、十の位でわり切れる、及び九九1回適用）の筆算ができる。	
5	○3位数÷1位数=3位数（各位ともわり切れない、及び一の位でわり切れる）の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。	・ 問題場面から数量の関係をとらえ、立式する。 ・ 734÷5 の筆算の仕方を考える。 ・ 734÷5 の筆算の仕方をまとめる。 ・ 734÷5 の答えの確かめをする。 ・ 計算練習をする。	○3位数÷1位数の筆算の仕方を、既習の2位数÷1位数の筆算と同じ手順で考え、具体物や式を用いて説明している。 ○3位数÷1位数=3位数（各位ともわり切れない、及び一の位でわり切れる）の筆算ができる。	
6	○3位数÷1位数=3位数（商に空位を含む、及び百の位や十の位でわり切れる）の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。	・ 843÷4, 619÷3 の筆算の仕方を考える。 ・ 計算練習をする。	○3位数÷1位数=3位数（商に空位を含む、及び百の位や十の位でわり切れる）の筆算ができる。	
(3) わり算の筆算(2) 上p. 41~43 1時間				
1	○3位数÷1位数=2位数（首位に商がたたない）の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。	・ 問題場面から数量の関係をとらえ、立式する。 ・ 256÷4 の筆算の仕方を考える。 ・ 256÷4 の筆算の仕方をまとめる。 ・ 256÷4 の答えの確かめをする。 ・ 計算練習をする。	○256÷4 の筆算の仕方について、具体物や式を用いて考え、説明している。 ○3位数÷1位数=2位数（首位に商がたたない）の筆算ができる。	
(4) 倍の計算 上p. 44~47 4時間				
1	○倍を求める場合も、除法を用いればよいことを理解する。	・ 15mが3mの何倍かを求めるには、どんな計算をすればよいのかを数直線を基に考える。 ・ 「3mの□倍が15m」の関係をおさえて、3×□=15の式で確認する。 ・ 基準量の何倍かを求めるには除法を用いればよいことをまとめる。	○数直線を用いて数量の関係をとらえ、説明しようとしている。 ○倍を求めるには、除法を用いればよいことを理解している。	
2	○比較量を求めるには乗法を用いればよいことを理解する。	・ 180cmの3倍にあたる大きさを求めるには、どんな計算をすればよいのかを数直線を基に考える。 ・ 基準量の何倍かにあたる量を求めるには乗法を用いることをおさえ、数量の関係をまとめる。	○数直線を用いて数量の関係をとらえ、説明しようとしている。 ○比較量を求めるには、乗法を用いればよいことを理解している。	
3	○基準量を求める場合は、□を用	・ 数量の関係を数直線を基に考え、□を用いて乗法の	○数量の関係を数直線を基にとらえ、	

	いて乗法の式に表し、除法を用いて□を求めればよいことを理解する。	式に表す。 ・ □にあてはまる数を求めるには、除法を用いるか数をあてはめて調べることをおさえる。	□を用いた式に表すことを考え、説明している。 図未知数を□として乗法の式に表し、□の値を求めることができる。
4 本 時	○2数の倍関係を用いると、基準量が分からなくても全体量を求められる場合があることを理解する。	・ 3個で240円のヨーグルトを12個買ったときの代金の求め方を考える。 ・ 3個で200円のゼリーののように、単価がわり切れない場合も、12が3の何倍かを考え、個数と代金の比例関係を用いれば12個の代金を求められることをおさえる。	図2数の倍関係に着目して、全体量の求め方を工夫して考え、説明している。 図2数の倍関係を用いた、全体量の求め方を理解している。
(5) 暗算 上p.48 1時間			
1	○2位数÷1位数=2位数の除法の暗算と10、100の倍数(3位数)を1位数でわる除法の暗算の仕方を理解し、その暗算ができる。	・ 74÷2 の暗算の仕方を考える。 ・ 暗算の練習をする。 ・ 740÷2 の暗算の仕方を考える。 ・ 暗算の練習をする。	図2～3位数÷1位数の暗算の仕方を、被除数を分解したり、被除数の相対的な大きさをとらえたりして、既習の暗算に帰着して考え、説明している。 図簡単な2～3位数÷1位数の暗算ができる。
まとめ 上p.49～50. 129 2～3時間			
1	○学習内容を適用して問題を解決する。	・ 「力をつけるもんだい」に取り組む。	図学習内容を適用して、問題を解決することができる。
2 (3)	○学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。 ・ 【発展】巻末p.129の「おもしろ問題にチャレンジ!」に取り組む、単元の学習内容を基にわり算の筆算についての理解を深める。	・ 「しあげのもんだい」に取り組む。	図基本的な学習内容を身につけている。

4 本時の指導

(1) 本時の目標

- ・ 余りのとらえ方について理解を深める。

(2) 視点についての手立て

【視点1：考えを伝え合うための場の工夫】

伝え合いガイドをもとに、自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いたりする場面を設定する。同じ考えが出て、説明の仕方や、答え方を工夫して、自分の考えを伝える場を確保する。

【視点2：自分の考えを伝える手立ての工夫】

実際に場面を想定させ、半具体物(おはじき、数図ブロック)の操作活動や図を使うことで、余りがでない場合と出る場合があることを実感させる。

ノートに自分の考えを表現させるときに、式の表す数が何を意味しているのかということを、吹き出しや矢印などで言葉とつなげて表現させる。数の簡単な場合のときこそ、「式の中の数は何を意味するのか」「この式は何を求める式なのか」をしっかりと意識させることを取り入れる。

どちらの学年とも複式学級を経験している。このことから、指導過程で「ずらし」を取り入れる。3年生は問題把握の場「つかむ」から進め、4年生は自力解決の場「やってみる」の段階からとする。「わたり」を取り入れ、各学年交互に直接指導できるよう支援する。

(3) 評価規準

評価規準	満足できる	努力を要する児童への支援
【知識・理解】	問題場面を吟味して、余りも1つ分としてとらえ、計算した答えに1を足す処理の仕方を理解している。	問題の関係を児童用のおはじきなどで操作させ答えを考えさせる。

4 本時の指導

(1) 本時の目標

- ・ 2数の倍関係を用いると、基準量が分からなくても全体量を求められる場合があることを理解する。

(2) 視点についての手立て

【視点1：考えを伝え合うための場の工夫】

伝え合いガイドをもとに、自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いたりする場面を設定する。同じ考えが出て、説明の仕方や、答え方を工夫して、自分の考えを伝える場を確保する。

【視点2：自分の考えを伝える手立ての工夫】

前時まで用いてきた図や数直線に全体の量や1あたりの量を位置づけて表現する方法を本時も用いることで、数と図のつながりを実感させる。ノートに自分の考えを表現させるときに、式の表す数が何を意味しているのかということを、吹き出しや矢印などで言葉とつなげて表現させる。数の簡単な場合のときこそ、「式の中の数は何を意味するのか」「この式は何を求める式なのか」をしっかりと意識させることを取り入れる。

(3) 評価規準

評価規準	満足できる	努力を要する児童への支援
【数学的な考え方】 【知識・理解】	単価がわり切れない場合も、個数と代金の比例関係を用いて全部の代金を求めている。	ノートに自分の考えを表現させるときに、式の表す数が何を意味しているのかということを、吹き出しや矢印などで言葉とつなげて表現させる等のかき方の例示(ヒントカード)を用意する。

(4) 本時の展開

第3学年		第4学年				
段階	・留意点 ◎視点 *教師の支援 ○評価	学習活動の流れ・予想される児童の反応	わたり	学習活動の流れ・予想される児童の反応	・留意点 ◎視点 *教師の支援 ○評価	段階
つかむ 5	<ul style="list-style-type: none"> ・問題を読み、題意をとらえる ・先に、子どもが20人の場合、4人乗りボートが何艘必要かという問題から入る。(割り切れる)) ・場面絵を手がかりにし、分かっていることと何を求めるかを確認する。 ・どんな式になるか考え、立式させる。 	<p>1 問題を読む。</p> <p>【問題】子どもが23人います。4人乗りのボートに分かれて乗ります。みんなが乗るには、ボートは何艘あればいいですか。</p> <p>2 解決の見通しをもつ。 式 $23 \div 4 = 5$ あまり 3</p> <p>3 課題の把握</p> <p>【課題】みんなが乗るためには、あまりをどうするか考えよう。</p>		<p>1 問題・課題・見通しの確認。</p> <p>【問題】ゼリーも3こで1パックになっていて、ねだんは200円です。このゼリー12この代金はいくらですか。</p> <p>【課題】1このねだんがもとめられないとき(わりきれないとき)は、どうやって代金を求めればいいだろうか。</p> <p>2 一人で、解決に向かう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・問題・課題を確認する。 実物のゼリー 問題・課題提示(黒板用) ・1個あたりの値段が求められないということを確認し、求め方の見通しをもたせる。 ・立式する具体的な理由・根拠を自分が考えた図に表現したことになるように助言する。 ・図の一つ分の量が均等になるように助言する。 *手がつかない児童には図のかき方の例示(ヒントカード)を用意する。 ・ホワイトボードに自分の考えをまとめさせる。 	やってみる 15
やってみる 15	<ul style="list-style-type: none"> ・半具体物(おはじき、数図ブロック)の操作活動や図を使うことで、余りがでない場合と出る場合があることを実感させる。 ・図や絵にかかせることでじっくり考えたり、式と対応した説明を書いたりできるようにする。 ・商とあまりが何を表しているかおさえるようにする。 *あまりをどうすればよいか考えられない児童には、図や絵のかき方のヒントを与えたり、「みんな乗るには」という言葉に着目させて、解決することができるようにする。 ・「みんな」という部分に着目させ、「何人あまりますか」というたずね方をしていないところから、あまりが出るが、答えにあまりを使わないことを確認する。 	<p>4 一人で、解決に向かう。 式 $23 \div 4 = 5$ あまり 3</p>		<p>3 友達を考えを伝え合う。</p> <p>4 全体で効果的な解決のしかたをたしかめて、まとめる。</p> <p>【まとめ】倍の関係を使えば、1このねだんをもとめなくても、代金を求めることができる。</p> <p>5 練習問題に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が考えた図を明確にさせ、式に根拠を分かりやすく発表させる。 ・1個あたりの値段が求められない場合にも、何倍を求める方法が適用できること確かめさせる。 ・途中計算が簡単な式では、暗算で求めて式表示しない児童もいるが、問題文中にない数を用いてるときは、その数字がどうやって導き出されたか明らかにさせる。 ・考え方と式を関連付けさせながら根拠を説明できたことを認め、次の問題への意欲につなげる。 ・2数の倍関係を用いると、基準量が分からなくても全体量を求められることのよさをおさえる。 ○図2数の倍関係に着目して、全体量の求め方を工夫して考え、説明している。(ノート・発表) 	確かめる 15
確かめる 15	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が考えた図を明確にさせ、式に根拠を分かりやすく発表させる。 ・実態によって誤答例を提示し、その考えについて話し合わせる。 ・考え方と式を関連付けさせながら根拠を説明できたことを認め、次の問題への意欲につなげる。 ○ 図問題場面に応じた、商や余りの処理の仕方を理解している。 	<p>5 友達を考えを伝え合う。</p> <p>6 全体で効果的な解決のしかたをたしかめて、まとめる。</p> <p>【まとめ】みんなが乗るために、ボートをの数を1そうふやす。</p> <p>7 練習問題に取り組む。</p>		<p>6 本時の学習を振り返って分かったことや気づいたことをまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・問題場面に応じて使うことで、どちらの考え方も大切であることを伝える。 ・授業を通して気づいたことや友達のかえで分かったことなどをノートにまとめさせる。 	まとめる 10
まとめる 10	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を通して気づいたことや友達のかえで分かったことなどをノートにまとめさせる。 	<p>8 本時の学習を振り返って分かったことや気づいたことをまとめる。</p> <p>9 次時予告。</p>		<p>7 問題を読む。</p> <p>【問題】74まいの色紙を、2人で同じ数ずつ分けます。1人分は何まいになりますか。</p> <p>8 解決の見通しをもつ。</p> <p>9 課題を把握する。</p> <p>【課題】花たばがいくつできるか説明しよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・問題を読み、題意をとらえる。 ・ $74 \div 2$ の式になることを確認する。 ・暗算で計算することを確認する。 	つかむ 5

(5) 板書計画
《第3学年》

本時

【問題】子どもが23人います。4人乗りのボートに分かれて乗ります。みんなが乗るには、ボートは何艘あればいいですか。

【課題】みんなが乗るためには、あまりをどうするか考えよう。

式 $23 \div 4$

みんなの考え

$23 \div 4 = 5$ あまり3
 答え 5あまり3だから
 5艘あればよい。

答え 5艘

$23 \div 4 = 5$ あまり3
 答え 5艘だと3人乗れない
 だから、もう1艘ひつよう。

答え 6艘

練習問題

【まとめ】みんなが乗るために、ボートをの数を1艘ふやす。

(次時)

【問題】花が30本あります。この花を4本ずつたばにして、花たばをつくります。4本ずつの花たばはいくつできますか

【課題】花たばがいくつできるか説明しよう。

《第4学年》

【問題】ゼリーも3こで1パックになっていて、ねだんは200円です。このゼリー12この代金はいくらですか。

【課題】1このねだんがもとめられないとき(わりきれないとき)は、どうやって代金を求めればいいだろうか。

【まとめ】倍の関係を使えば、1このねだんをもとめなくても、代金を求めることができる。

前の時間のみんなの考え

$240 \div 3 = 80$
 (まず、1このねだんを出す)
 $80 \times 12 = 960$
 (全部で12こだから)
 答え 960円
 【1個分作戦】

$12 \div 3 = 4$
 (何倍になっているか考える)
 $240 \times 4 = 960$
 (1パックの4倍だから)
 答え 960円
 【何倍作戦】

3個で1パック200円のゼリーの
 場合でも同じ考えが使えるかな・・・

✕ $200 \div 3 = 66$ あまり2
 (わりきれない)
 ↓
 ゼリー1このねだんを求められない。

○ 求める個数12が1パック(3こ)の何倍かを求める
 $12 \div 3 = 4$
 $200 \times 4 = 800$
 答え 800円

練習問題

